

病院図書館員のためのウェブページ・フォリオ

“folio” <http://www.hosplib.org/folio/>

インターネット利用による共同事業モデルとして

奥出 麻里

editor@hosplib.org

共同運営ホームページ“folio”については、すでに大橋真紀子さんや上田奈津美さんが発表されています。そこで、ここではfolio公開までの経緯、反響などにも触れながら、構成や内容を少し詳しく紹介いたします。尚、当原稿は『ほすびたるらいぶらりあん』23(3):87-92, 1998に掲載された記事の転載であることを、お断りしておきます。

1 インターネット・プロジェクトの発足

1997年5月、聖路加国際病院において近畿病院図書室協議会と病院図書室研究会で共同事業打合わせ会を開きました。共同事業のひとつとして、インターネット・プロジェクトを発足させました。病院図書室におけるインターネットの普及と利用拡大を目的に、両会が協力して研究、啓蒙活動と会員への技術的支援を行うということでした。社会保険中京病院の大橋真紀子さんと私がおその担当となりました¹⁾。

1997年11月、国立京都病院において2回目の共同事業運営会議を開催し、インターネット・プロジェクトについては、以下の3つの宿題報告がありました²⁾。それは、オンライン・ジャーナル、病院図書館員に役立つインターネット、欧米の医学図書館にみる図書館機能とサービスについてです。

これらをふまえ協議の結果、1)オンライン

・ジャーナルのうち、フルテキスト提供のタイトル一覧を作成する。2)病院図書館員のためのインターネット・ツールとして、ウェブ上の役立つサイトをリンク集にまとめホームページ化する。ということが決定しました。ただし、1)のオンライン・ジャーナルについては、上記の決定を受けてリストを作成しましたが、実際に運用するとなると、調査も煩雑でアップデートをかなり頻繁にする必要があります。また、ウェブ上でリストがいくつも公開されていることから、最終的にはオンライン・ジャーナルをリストアップしている海外の図書館のリンク集を、共同運営ホームページ上で作ることになりました。2)については、ホームページのURLは近畿病院図書室協議会のドメイン内に置き、主に国内のサイトを分類・整理し、ウェブ上で紹介することになりました。そして、国立京都病院の小田中徹也さんと私を中心となり、このホームページ作成・運用のためのインターネット・プロジェクト・チームを設けることにしました。

この会議の決定を受けて、チームメンバーの人選と交渉、最初の編集会議開催のための準備作業に入りました。1997年12月、私がホームページ素案をまず作成しました。

2 運営・編集方針と名称folio決定まで

1998年2月、関東通信病院において第1回ホームページ編集会議を開きました。イン

おくで まり：フォリオ編集長 川鉄千葉病院図書室

ターネット・プロジェクト・チームが正式に発足しました。ここで、先のホームページ素案のテスト版を見てもらい、運営・編集方針を協議しました。URL、目的、チーム名とメンバー、役割分担、ホームページの構成、運用、編集・公開のスケジュール、運用・編集会議、などについて決めました。チームメンバーは、近畿病院図書室協議会側から、小田中徹也さん（国立京都病院）、大橋真紀子さん（社会保険中京病院）、須井麻由美さん（三菱京都病院）、病院図書室研究会側から、長谷川湧子さん（関東通信病院）、下原康子さん（東邦大学医学部佐倉病院）、奥出麻里（川鉄千葉病院）の6名でした。ウェブマスターが小田中さん、編集長を私が担当することになりました。

ホームページの名称については、時間がなく決定できませんでした。その後、このfolioというニックネームを決めるまでに何度もメールの交換をしながら名称案を出し合いました。約1か月後の3月25日、長谷川さんの案の説明のなかにあった言葉、“folio”によりやく決定しました。サブタイトルとして“useful webpages for hospital librarians”、「病院図書館員のためのウェブページ・フォリオ」としました。

フォリオ・チームは当初6名のメンバーで出発しましたが、3月下旬に新しく上田奈緒美さん（東京都臨床医学総合研究所）が加わり、7名になりました。

ホームページの構成、役割分担については、folioの「このプロジェクトのこと」にもありますので、ここでは省略します。

3 レイアウトとシンボルイメージ、編集作業

ホームページ全体のレイアウト構成を小田中さんが、メイン画像シンボルイメージとロゴ、アイコンなどの製作を私が、それぞれ担当しました。

そこで、名称“folio”のイメージに合った

シンボルイメージ、ロゴをと思い、葉のイメージで数種類の画像をPhotoshopで作成、そのうち1つを決めてからも画像形式、大きさなど数通り作ってみました。

folioというときさまは何を思い浮かべますか？ 一葉、二折本、書類や楽譜のバインダー、から発生して、ウェブページのフォリオ、二団体の合同ページというイメージを膨らませています。

また、トップページの編集では、先の編集会議でhtmlのテーブル機能を採用することに決めていましたので、それに沿ってレイアウトを作成しました。フォリオ・チーム全員のお気に入りのページになりました。非公開テスト版をアップロードし、各メンバーがそれぞれのパソコン環境で動作チェックをしました。並行して、各ページのファイル名を決め、各自担当ページ作成の作業に入りました。

フォリオ・チームの編集作業工程は、図1のとおりです。この間の流れでは、email、FTP、WWWのインターネット機能を利用しています。

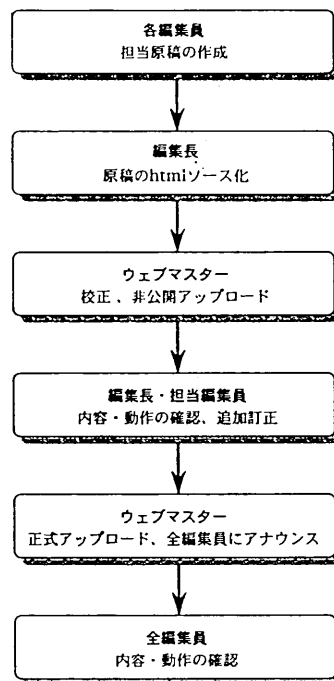


図1 “folio”編集作業の流れ

内容・動作の確認とは、ブラウザで見るページの表示が正常かどうか、リンク先のURLにまちがいがなくアクセスできるか、記事の説明文に誤字・脱字がないか、表現は適切か、リンク先のページの内容や質は適切か、などです。こうしてチェックを繰り返し、ときにはホームページの構成自体を変更しながら進めていきました。

ブラウザの種類やそのバージョン、また、WindowsかMacintoshかによって表示のされ方も変わり、それをできうる限りチェックし修正していきました。なかにはhtmlをどんなになおしても指示通りに表示しない場合もありました。ソフトのバグでしょうか。結果的に誤表示が解消されていないバージョンもあります。ブラウザの使用フォントやサイズにも影響されますので、すべてに満足できるようなページを作ることは不可能だということを感じました。

また、チームメンバーはかならずしもインターネットに詳しいわけではなく、環境の違いもあり、作業を進めていく上でメールの添付書類のファイル形式についてもトラブルがありました。

これらの問題点が出てきた段階で、ウェブマスターはできる限り原因を洗い出し、最大公約数の形を採る方法で、チームメンバーにアナウンスして作業を進めました。

4 folio公開そして広報宣伝活動

1998年5月9日、聖路加国際病院において第3回共同事業運営会議が開催され、ここでfolioが披露され、公開が決定しました^{3) 4)}。

結局ホームページの作成を決めてから、実際に会合を持ったのは2回だけです。関東通信病院で初めての会合。まだその時点では素案のテスト版があっただけでした。そして2回目の会合のときには、公開決定でした。このように、お互い遠隔地に住んでいるチームメンバーで、編集のような打ち合わせの多い作業を進められたのは、インターネットのメ

リットを利用したからでした。それが、先ほどの「編集作業の流れ」です。私たちはこれを勝手に「仮想編集室」と呼んでいます。

公開後は、できるだけ多くの方に知ってもらうため、広報宣伝活動を始めました。それぞれの会誌である『病院図書室』⁵⁾、『ほすびたるらいぶらりあん』⁶⁾への紹介はもちろんのこと、medlib-jなどのメーリングリストへもお知らせを流し、また、サーチエンジンのYahoo! JAPANへ登録しました。『医学図書館』の東西南北⁷⁾への原稿提出、そして大橋さんが10月9日札幌で開催された日本社会保険医学会総会で発表するほか、小田中さんが10月22-23日東京で開催された、日本病院会全国図書研究会の継続教育で講演されました。

5 「図書館サービスの支援」と「コーヒーブレイクに」

folioのトップページには10項目あります。そのなかから今回は「図書館サービスの支援」そして、「コーヒーブレイクに」を少しご紹介しましょう。「図書館サービスの支援」はさらに5つの項目に分かれています(図2)。

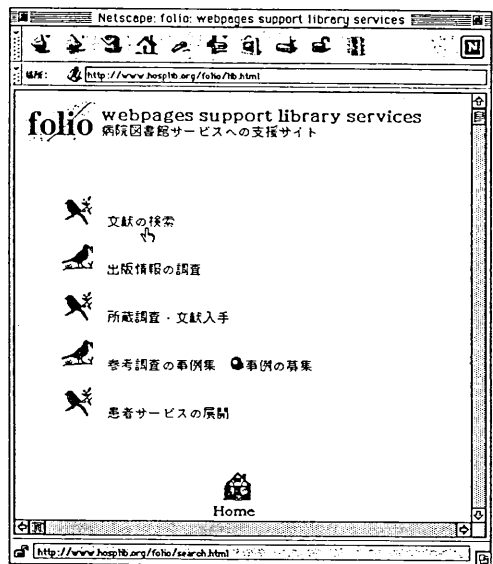


図2 図書館サービスへの支援

1) 文献の検索

このなかもさらにFree MEDLINE、和雑誌特集記事検索、有料サービス・サイトと3つに分けました。

話題のFree MEDLINEでは、“Internet Grateful Med NLM”、“Pub Med NCBI”、“Medscape”、“BioMedNet-Evaluated MEDLINE”の4つを取り上げ説明し、リンクしています。和雑誌特集記事検索では、「北里大学看護学部図書館雑誌特集記事索引」など、5つを紹介しています。有料サービス・サイトでは、“DIALOG Web”と“Enjoy JOIS”を取り上げました。

2) 出版情報の調査

ここは和書、洋書に分け、「日本医書出版協会」、「図書館流通センター：TRC」など、それぞれ5-6サイト紹介しています。

3) 所蔵調査・文献入手

ここでは、「学術情報センターNACSIS Webcat」、「VML Virtual Medical Library」など8サイトにリンクしています。

4) 参考調査の事例集○事例の募集

folioでは、インターネットを使ったレファレンス事例集を紹介していきたいと思い、このページを作りました。ぜひ、あなたの事例もここにお寄せくださいね。

5) 患者サービスの展開

これからは欠かせないページでしょう。日本の情報リソースを10サイトほど紹介しています。患者さんまたはその家族による、あるいは医療者による一般向け医学情報のページは、病院図書館員にとっても興味深い情報源になっています。

この「図書館サービスの支援」については特に、今後さらに充実していきたいと思っています。

また、「コーヒープレイクに」というコーナー、ご存じですか。楽しいページです。フォリオ・チームのメンバーが毎月交替で個人的にウェブページを紹介しています。ちょっと仕事の合間にコーヒーでひと休みしませんか。トップバッターは上田さんの「ポ

ブとアンジーのキッチン家庭料理レシピ集」でした。その次に下原さんが「姉の日記より」を紹介、大橋さんの「トマソンリンク」、そして私の「時計工房 MY CREATION」と続いています。ぜひお立ち寄りくださいね。

6 プロジェクトをふりかえって

最近、インターネットにアクセスできるようになった病院図書室がかなり増えています。担当者の方からいろいろ尋ねられることも多いのですが、まず最初にこのfolioを紹介できるのがうれしく思います。特に初めてインターネットを利用される方、インターネットが図書室でいったい何に役に立つのか、という素朴な疑問をお持ちです。また、具体的にFree MEDLINEやオンライン・ジャーナル、サーチエンジンなどについて、聞かれる方も多く、細かい説明なしにすぐにfolioを見ていただけます。図書室の利用者の方々にも積極的にPRしていただいているということも聞いています。そして実際使っていただいて、とても便利で役に立っていますというお話を聞くと、ますますうれしくなっています。これからも、病院図書館員の強い味方になる良質なサイトを紹介していきたいと思っています。

図3は、アクセス状況のグラフです。NedStat counterというものをトップページに付けていますのでご覧ください。5月に公開して以来どのくらいアクセスがあるものなのか心配していましたが、medlib-jへのお知らせ後、急に利用が増えましたが、その後も私の心配をよそに順調に利用されているようです。

こうしてインターネット・プロジェクトの発足からたどってみますと、改めてインターネットの意味を考えさせられます。まさにインターネットがあったからできたこと、インターネットという共通の基盤があったことで、環境も違う、場所も違うところの図書室のメンバーが集まって、いいえ、集まらなくても、共同で共通の情報を維持できるのです。この

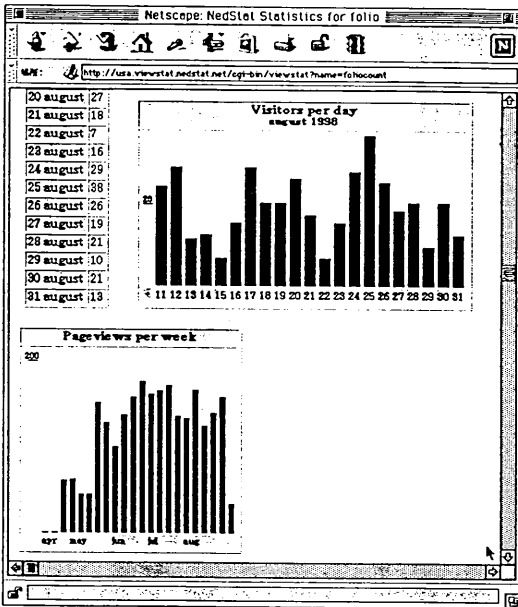


図3 NedStat counter

folioは、病院図書館員が利用できそうなウェブページを評価し選択し、説明を加え、それを通じてインターネットリソースへのアクセスを提供している情報リソースです。このプロジェクトは、他の共同研究をインターネットを通して行うためのひとつのモデルにもなるのではないと思自負しています。

最後になりましたが、フォリオ・チームのメンバーの皆さまにはたいへん無理も言いましたが、責任を持って仕事をさせていただきました。ありがとうございます。特にウェブマスターの小田中さんには、インターネットよちよち歩きのチームメンバーを辛抱強く教育、支援、そしてリーダーシップをとっていただき感謝しております。ホームページは継続し更新していくことに意味があります。これからも、病院図書館員の強い味方であることを目指していますので、今後ともよろしく

お願いいたします。

また、両会の会員の皆さま、folioは私たちのページです。これを利用されている方、どうぞ感想をメールしてください。どんな小さなことでも気づいたこと、ご提案などございましたら、「フォリオへのメッセージ」からどうぞ。また、folioはリンクフリーですから、どうぞあなたのホームページからリンクしてくださいね。

この原稿を提出したすぐあと、(財) AVCC 高度映像情報センターより、folioが1998年9月のおすすめサイトに選ばれました。folioのトップページのgood siteマークからリンクしています。病院図書館員のためのfolioが、外部からも評価を受けうれしく思います。

引用文献

- 1) 近畿病院図書室協議会と病院図書室研究会との共同事業打合わせ会報告. 病院図書室, 17(2):64, 1997.
- 2) 近畿病院図書室協議会・病院図書室研究会共同事業運営会議報告. 病院図書室, 17(3):101, 1997.
- 3) 第3回近畿病院図書室協議会・病院図書室研究会共同事業運営会議報告. 病院図書室, 18(2):81-83, 1998.
- 4) 第3回近畿病院図書室協議会・病院図書室研究会共同事業運営会議報告. ほすびたるらいぶらりあん, 23(2):51-52, 1998.
- 5) 大橋真紀子: 今すぐ役立つホームページ
② folio. 病院図書室, 18(2):55-57, 1998.
- 6) 上田奈緒美: 病院図書館員のためのウェブページ・フォリオ. ほすびたるらいぶらりあん, 23(2):53, 1998.
- 7) 奥出麻里: 病院図書館員のためのウェブページ・フォリオ"folio". 医学図書館, 45(3):302, 1998.